

農業と諸産業の発達

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

安土桃山

江戸

明治

今日の問い

江戸時代、農業や諸産業はどのように発達し、人々のくらしをどう変えたのだろう。

読み終えたら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 新田開発と農業の進歩

農業の発達

新田開発

用水路や干拓で、新しく田畑を切り開くこと。

干鰯

いわしを干してつくった、お金で買う肥料。

商品作物

売って現金を得るためにつくる作物。

幕府や藩は、年貢を増やすために用水路を引いたり、海や沼地を干拓したりして**新田開発**をすすめた。その結果、18世紀の初めには、全国の耕地面積が豊臣秀吉のころの約2倍に広がった。農具も改良され、土を深く耕せる**備中ぐわ**や、稲の脱穀を速くした**千歯こき**が広まった。農業の技術をまとめた『農業全書』などの**農書**も読まれ、新しい知識が各地に伝わった。

肥料には、草や灰のほかに、いわしを干した**干鰯**や油かすなど、お金で買う肥料(**金肥**)が使われるようになった。また、衣類の原料となる綿や、油をとる菜種、染料となる紅花・藍などの**商品作物**がつくられ、百姓はそれを売って現金を手に入れた。こうして農村にも**貨幣**が広く使われるようになった。

2 漁業・鉱業と特産物

諸産業の発達

九十九里浜

今の千葉県海岸。大きな網を使ったいわし漁がさかんだった。

佐渡金山

今の新潟県にあった、幕府が直接治めた金山。

石見銀山

今の島根県にあった、幕府が直接治めた銀山。

漁業では、**九十九里浜**で大きな網を使ったいわし漁がさかんになった。とれたいわしは干鰯に加工され、近畿地方などの綿の産地へ肥料として運ばれた。蝦夷地(今の北海道)では**にしん**漁が行われ、にしんも肥料に加工された。紀伊(和歌山県)や土佐(高知県)などでは、かつおやくじらの漁も行われた。

鉱山の開発もすすみ、幕府が直接治めた**佐渡金山**や**石見銀山**などで金・銀が、足尾などでは銅が掘り出された。金・銀・銅は貨幣の材料となったほか、銀や銅は長崎での貿易でも輸出された。各地では、その土地の原料を生かした織物・陶磁器・漆器などの**特産物**もつくられ、全国に売られるようになった。藩の中には、特産物づくりをすすめて収入を増やそうとすることもあった。

産業	おもな例
漁業	九十九里浜のいわし・蝦夷地のにしん
金山・銀山	佐渡金山・石見銀山
銅山	足尾銅山など

問いへの答え

幕府や藩は年貢を増やすために新田開発をすすめ、備中ぐわ・千歯こきなどの農具や、干鰯などの肥料が広まって、農業の生産力が高まった。綿や菜種などの商品作物を売って現金を得る百姓も増え、農村にも貨幣が使われるようになった。漁業や鉱業もさかんになり、各地で特産物がつくられて、全国で品物が売り買いされるようになった。

次は **ノート** で、下線に語句を書きながら確かめよう →

